

9月卒業生アンケートより

通信教育部を今年9月に卒業された方にご協力をいただいたアンケートのなかから、紙数の許す範囲でコメントをピックアップしてみました。皆様の学習のご参考になれば幸いです。

問1 通信教育部での学習は、職場や家庭などの日常生活で役立っていますか。

- ・職場での一つ一つの自身の行動に、根拠（エビデンス）があるかどうかを、常に考えるようになった。
- ・人間関係、社会事象などあらゆることに関して多角的な考え方ができるようになったと思う。
- ・人との向き合い方。福祉について話し合いに入れるようになった。
- ・対話をしていて、見聞きした知識と自分が感じ考えたことを区別して話せるようになってきたこと。新聞やテレビで情報を得る際、話し手の主張を以前よりもより正確に早くつかめるようになった。
- ・一般的な日常の物事に対して、世間一般以外の自分自身の中で、「本当にそれはそうとらえて足りるのか？」、他の場面はないか？情報がかたよっていないか？等考えるようになり、その時すんなり理解する・納得することが少なくなり、常にまだ解決されていないこととして心のどこかに「ある」という態度が身につきました。だからこそ、一面的な判断をしないことが増え（多少ですが）、人に対しても自分にふりかかった出来事に対しても、以前より許容範囲が広がったと思います。
- ・認知症グループホームに勤務しているため、認知症の人への接し方、状況に応じた対応の仕方など学んだことを実践で生かしたし、今後、施設職員のリーダー的存在として出世していくうえでも福祉経営論は参考に

なりました。

- ・職場が精神病院という医療現場なので患者さんと接する際に、役立つこともあります。
- ・福祉にたずさわる上での重要なこと、視点、関わり方、倫理などを学び、日常の仕事（特養勤務）で役立っていると感じます。

問2 通信教育部で得た資格・学んだことを今後どのようにいかしてみたいとお考えですか。

- ・まずは、国家試験に受からなければ、意味がないと思う。
- ・社会生活をするうえで、生きづらさを感じている人を必要な資源につなげていくという働きかけができれば良い。
- ・現在は看護師として働いており、医療面でのアプローチが主であります。対象者の生活そのものに関して多側面から考えさせていただきます。
- ・産業カウンセラーの試験に合格して、実際にカウンセラーとして仕事をしてみたいと考えています。
- ・ボランティア活動（視覚障害者のための音訳活動）をとおして若い後継者の育成に関わっている中、世代の違いから生じる人間関係の調整、相撲などに生かしている。
- ・職場や家庭、友人など周りの人に対する理解に生かしたい。
- ・転職をします。その転職先で知識を生かせればと思います。

問3 学習計画を具体的にどのように作成していましたか

- ・おおまかな学習計画と、レポートを書きあげる目標はカレンダーに記入した。
- ・スクーリング終了後、なるべく早くレポートを提出するように心がけた。科目修了試験のレポート提出日をカレンダーに記入した。

- ・図書館で、参考文献を借りていたので、返却日までには、必ずその科目のレポートを完成させ、返却の際に次の科目の参考文献を借りてくるというサイクルを継続した。スクーリングは、地元（札幌）で行われるものは、必ず参加できるように予め仕事を調整した。
- ・特に細かいことは決めず、休日2日でレポート1つを仕上げるようにした。
- ・スクーリングの予定日、レポート提出日を手帳に記入した。
- ・試験・スクーリングについては無理のない範囲で積極的に受験・参加するようにした。

問4 学習をしていて辛かったことはありましたか。

- ・眠さと育児とモチベーションの低下から、テキストを開くことのない日々が続いた。
- ・レポートで再提出を4回も経験したこと。
- ・仕事と両立すること（なかなか時間がとれず、学習が進まなかった）・意欲が落ち、なかなかとりかかれぬ時期があった。
- ・はじめのうち、試験やスクーリングでの単位修得が遅れたこと。学習ペースがつかみずらかったこと。

問5 辛かったことをどのように克服しましたか。

- ・通信の仲間にメールしたり、スクーリングに参加することで、自分に焦りを感じさせた。周囲の人達の頑張りが刺激になった。
- ・空白の時間を多く取り入れ、最初からやり直した。
- ・レポートの書き方について友人からアドバイスを受け、まとめの方向性が見えてきたことは良かった。
- ・図書館にて、国立国会図書館やCiNiについて教えたもらったこと。
- ・テキストの熟読。

- ・すでに所持している参考文献もしくは教科書で何とかしていた。
- ・通信教育部事務室への相談。早めに職員の方々に相談して良かった。
- ・スクーリングをできるだけ多くとり、科目修了試験を最小限にする。

問6 学習をしていて楽しかった（面白かった）ことは何ですか。

- ・それまで知らなかったことを知ることができたこと。
- ・演習においては、先生や同じ仲間と対話し、話題を共有できたことが楽しかった。
- ・多くの文献や資料を調べることでレポートがスムーズに書けたとき。
- ・スクーリングに出て、学生気分を味わえたこと。
- ・年齢を超えて学友ができたこと。
- ・今の自分の仕事と関連のある内容の学習は、興味を持って取り組めた。心理学実験のスクーリングは、楽しかった。
- ・煮つめて煮つめて、毎日の生活の中にレポート課題の世界が入って、その色に染まって、考えて…「はっ！」と何か思いついた時。レポートの材料が、頭にどんどん浮かぶとき。
- ・スクーリングで仲間に出会えたこと。テキストが理解できたこと。
- ・自分が納得いく学習ができたと実感し、それを科目修了試験やスクーリング試験で可能な限り表現しようと、答案作成に励んだこと。

問7 テキストの読み方について、特に工夫されていたことがあればお教えてください。

- ・気になった部分は、レポート課題集で指定されていないものでも読んで、調べたりしていた。
- ・索引を活用し、課題となる言葉からページ数を調べた。教科書にマーカーをつけ、大事なページには付箋を付けた。
- ・テキストの区切りと思われる箇所で小さなまとめを自分なりに書く。

- ・重要点をピックアップして、パソコンに打ち込む。
- ・一度、全体に目を通してから、課題に必要と思われるところを読んだ。
- ・すべて読むのは大変なので、レポートに関係ありそうな部分を中心に読んだ。
- ・何回も読んだ。
- ・テキストを読み進めていく過程で感じたこと、考えたこと、気づいたこと、疑問点をテキストの余白にたくさん書き込みました。

問8 レポートを書くのに特に苦勞した科目があれば、その科目名とどのような点で苦勞されたのか具体的にお教えてください。

- ・「精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ」（再提出になったこともあり）苦勞して書きました。
- ・「公的扶助論」「社会福祉援助技術論A・B」再提出があった。再提出のコメントの意味が難しすぎた。
- ・「社会福祉原論」と「社会福祉援助技術論A」において課題で問われている意味をうまく理解できなかった。
- ・「福祉心理学」最初のころで、レポート課題の意図する内容がわからなかった。あやふやな理解のままレポートを提出したら、「不可」になった。
- ・「社会調査の基礎」。何がテーマとなっているのか理解できなかった。
- ・「心理学研究法Ⅰ」の課題1です。どのように研究計画を立てたらいいのか思うように進まないため、半年以上の時間がかかった。
- ・「心理療法」（課題4）は苦勞して4回目の提出でやっと可をもらうことができた。家族療法を用いて問題解決にあたるのだが、一筋縄ではいかない家庭の状況下で少年を立ち直らせる方策を考えるものだった。

次号以降で引き続きご紹介できればと考えています。メッセージをお寄せいただいた方に厚く御礼申し上げます。